

水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS

活動報告



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業



NPO 法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部

はじめに:

当法人では、震災直後に、NPO 法人日本エコツーリズムセンターが中心となり発足した「RQ 市民災害支援センター」の協力団体として、宮城県登米市の拠点に入り、被災地への支援物資運搬に従事していましたが、当時、一緒に行っていた、NPO 法人水守の郷 セブンス 理事長 海藤節生氏から、北上町の十三浜では石巻市の北端に位置するため、市町村合併の弊害として支援の手が遅れているので協力し



て欲しいとの連絡があり、直ぐに支援活動に向ったところ、この地域では、全く手付かずの状態が広がっていました。併せて、相川・小指災害対策本部 鈴木本部長より、瓦礫の撤去作業として、石巻のボラセンを当てにする事が出来ないで、当法人の方で、ボランティアを募り、当該地域の支援活動を行って欲しいとの要請を受けました。

そこで、当法人では、通常実施している水辺の清掃活動 SEAVERS で関わっているボランティアを中心とした人員のほかに、新たに瓦礫処理に関わるボランティアを募り、平成23年4月より、継続した瓦礫処理などの清掃活動を当該地域で実施を行いました。

本報告書は、この活動に、ご支援いただいた皆様へ、活動内容をご報告するために作成したものです。

目的:

相川・小指地区の公有地及び被災住居跡の瓦礫撤去や復興支援

概要:

本来のボランティア参加条件は、移動及び宿泊場所などの確保は、自己で行ってもらいますが、この地域には未だに公共交通手段はなく、電気、水などの復旧も出来ていません。そこで、6月から7月の主に週末(金曜夜出発 日曜夜帰京)にボランティアバスを用意、学生や一般社会人を募り、現地で用意した宿泊拠点から作業に当たってもらいます。また、飲食などの店舗がないため、拠点にて提供をします。これらの作業を、現地の避難所で暮らしている方々を補助要員として関わってもらい、謝金を支払いながら、受入体制を構築し、当該地域の復旧・復興の道筋として実施しました。

事前調査:

平成23年4月17日から20日まで、事前調査及び拠点設置のための事前調査に向いました。宮城県石巻市河北町以北の被災地は、震災当初に現地入りした時と、道路の瓦礫は片付けられているものの、殆どがそのままの状態

となっております。



北上町へ続く道路

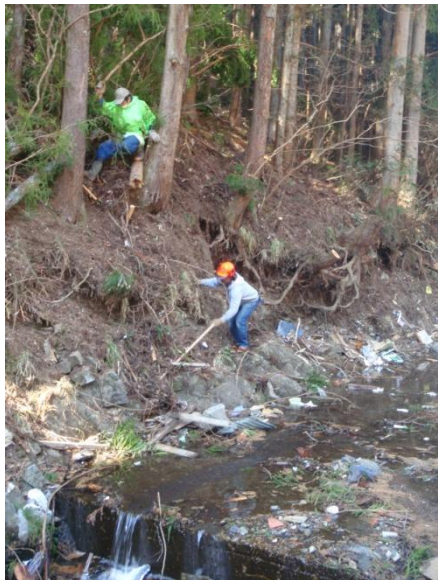


相川地区



小指地区

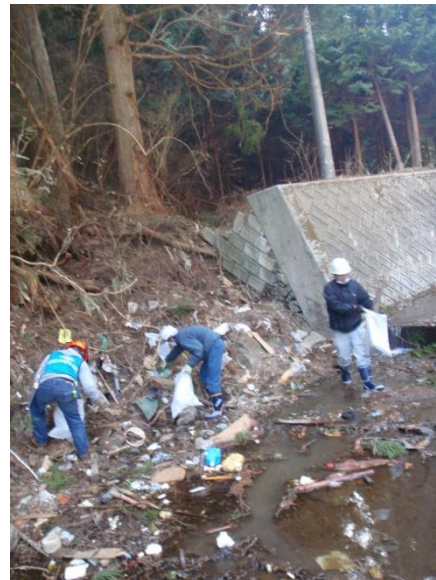
この地で生活していた住民は、全て西側の高台にある石巻市北上子育て支援センターを避難所とし生活をしています。市町村合併による弊害なのか、この地が最北に位置するため、さまざまな支援及び復旧活動のプライオリティーが低いと相川・小指地区災害対策本部 鈴木学本部長から説明を受けました。そして、津波による被害地域は全くと言っていいほど片付けられなくて、困っていると言う事を併せて相談を受けました。そこで、当法人で実施している水辺のパトロール隊 SEAVERS の清掃活動概要を説明し、当該地域で同様の活動を行う事を提案。併せて、作業拠点として小指地区にある旧ササキ設計の事務所兼自宅跡を提供して頂けるとのことで、拠点設置及び、作業現場での復旧作業を実際に行いました。



今回の被災地域は、小指地区及び相川地区ともに沢伝いに津波が駆け上がっています。



沢の法面に沢山の倒木や瓦、住宅建材などが残され、一面瓦礫が広がる状況となっています。



1日作業を行い、約50メートルが限度。多数のボランティアにより瓦礫処理作業を実施しなければ成果がでない状況です。



津波によって消失してしまった住宅の1階は、コンクリート製だったため躯体だけが残っていました。



この場所に、 TENT を張り、食事と就寝が出来るスペースを確保。本活動の拠点として備品類を設置しました。



風雨を防ぐブルーシートで囲い、電気ガスなどは復旧していないため、発電機による電力確保と瓦礫をかき集めて調理に使用。

資金調達と助成金の活用

この地域に東京からのボランティアを派遣する場合、受け入れるスタッフの人件費、滞在費、ボランティアの宿泊場所、食事提供など計画段階からかなりの資金が必要である事はわかっていました。また、この地域に必要な人員数も一度に、4から5人程度ではなく数十人規模の人員が一度に介さなければ目に見える成果が得られないと推測しました。そこで、当初NPOによる支援活動にご支援いただける助成金として、募集を開始していた中央募金会の「赤い羽根共同募金」と日本財団 ROAD プロジェクト「東北地方太平洋沖地震 災害にかかる支援活動助成」に応募し、第1回赤い羽根共同募金の助成団体として採択され、300万円の助成金を受けられる事となり、水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS のプロジェクトを遂行する事となりました。

当初の計画

全11回のボランティアツアーを定員20名で募集、応募してきたボランティアを継続的に現地に送り込む予定としていました。また、ボランティアの食事補助員として、現地の被災者の中から募集し、仕事を失った



方の新たな雇用へつなげてもらう予定としておりました。宿泊予定地域は、相川・小指地区対策本部のある石巻市北上子育て支援センターのグラウンドが空いているために、大型テントを設営 宿泊場所として活用する予定でした。日程については、下記のとおりです。

第1回 (6/3-5)	小指地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第2回 (6/10-12)	小指地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第3回 (6/17-19)	小指地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第4回 (6/24-26)	小指地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第5回 (7/1-3)	小指地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第6回 (7/8-10)	小指地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第7回 (7/15-18)	相川地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第8回 (7/19-21)	相川地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第9回 (7/22-24)	相川地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第10回 (7/26-28)	相川地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理
第11回 (7/29-31)	相川地区公有地の瓦礫処理・住民住居跡の瓦礫処理

夜 東京発 → 翌朝 現地着 作業手順説明 9:00 作業開始 17:00 作業終了 現地泊

翌日 9:00 作業開始 15:00 作業終了 16:00 現地出発 → 22:00 東京着 解散

実際の活動

スペースの関係上 支援センターのグラウンドは使用不可になり、当該地域からバスで40分ほど離れた温泉宿 追分温泉(一部避難所として活用)の部屋2部屋を当法人の活動として利用させて頂く事となり、併せて一般ボランティアの朝食及び夕食を提供して頂く事となりました。また助成金の採択はされたものの、一時金の支払いが行われなかったため、受け入れに関わる資金が調達できず、当初計画していた6月初旬からのプロジェクト実施はできず、実際には1

7日からとなりました。その間の支援活動を滞るわけにはいかず、ボランティアバス運航開始までは、普段活動している「SEEVERS」の中心スタッフ、当法人会員、新たに応募頂いたボランティアの方々が順番に現地に入り瓦礫処理に当たりました。活動するスタッフなどの食事に関しても、現地で食材の調達ができず、東京から運搬、被災者だけでなく、当方からスタッフを従事しなければ運用が出来ない事が判明、1日当たり、5名の専従スタッフとなりました。

活動報告

□ 4/15 先遣隊 現地入り

□ 4/17-20 事前調査及び瓦礫処理活動



□ 5/5-6 瓦礫処理活動



□ 5/20 現地対策本部との打合せ

□ 5/23-25 瓦礫処理活動



□ 6/6-8 瓦礫処理活動・6/9 NPO 法人水守の郷七ヶ宿と打合せ



□ 6/11-12 瓦礫処理活動



□ 6/13 現地対策本部との打合せ

□ 6/17-19 水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS 第1陣

第1陣の主な活動は、十三浜周辺の河川・水辺の瓦礫処理。主に、小指地区の河川にある瓦礫処理を行いました。参加者は、15名 コーディネーター2名 スタッフ5名 総勢22名で従事しました。初回という事もあり、想定していた手順ではうまく運用できない事項もあり、第2陣以降の作業手順の見直しなどを行いました。

見直し点：作業場所と現地本部が離れているため、コーディネーターは二手に分かれ、運用に当たる事としました。併せて、NPO法人水守の郷では、作業に関する現地本部との連絡を担当、SEAVERS 参加者の安全管理、作業指示は、当法人で行うものとなり、理事長 中林が全ての総責任者(コーディネーター)として当たる事となりました。



□ 6/24-26 水辺の清掃ボランティア隊 SEEVERS 第2陣

第2陣は、主に相川地区の瓦礫作業に従事。参加者は、25名、コーディネーター2名、スタッフ5名の総勢32名で従事しました。1日目は、問題なかったのですが、2日目は天候不順ではあったものの、作業を中断するほどではなくそのまま実施しました。大事には至らなかったものの、釘の踏みぬきなども参加者の中にあり、安全管理には更なる対策が必要である事を確認。これから、雑草が被い茂る時期に入るので、作業者への注意喚起をスタッフ全員に指示しました。スタッフは、一般ボランティアとは違い、全て現地本部に滞在する事となっていました。この本部には水道が無く作業後の入浴ができず、今後暑くなってきて、衛生面での問題が予測されるため、簡易型の風呂を本部に設置する事となりました。



□ 7/1-3 水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS 第3陣

第3陣の参加者は、23名、コーディネーター2名、スタッフ7名の総勢32名。今までの作業場所は、主に水辺を中心に行っていたのですが、山側も瓦礫が散乱しているため、今回は、相川地区の山裾沿いの瓦礫撤去作業に従事しました。この地域は、倒木も多く切断しないと運び出せないなどの問題が発生。一般参加者には安全面でリスクが高いため、切断の必要性がある場合は、コーディネーターが行う事で対応しました。



□ 7/4 災害対策本部との打合せ

□ 7/8-10 水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS 第4陣

第4陣の参加者は、24名、コーディネーター2名、スタッフ7名の総勢33名で従事しました。1日目は、相川地区の重機によって瓦礫処理を行った後の取りきれなかった瓦礫を回収する作業に従事しました。2日目は、河川の中に散乱する瓦礫の回収作業を開始したところで、震度4の地震が発生、併せて津波注意報が発令されたため、直ちに作業を中断、従事する作業員全員を直ちに現地本部へ避難させ、その後の状況を見極めるため待機させましたが結局そのまま活動終了となり、東京へ帰郷する事となりました。余震に対する対応は予め想定していた手順で行いましたが、現地参加者より各参加者の家族からの問い合わせなどが多くあり、その部分では当法人としての対応を想定していなかったことの反省から、第5陣以降は、参加者全員から自宅や緊急の連絡先を参加同意書に事前に記入してもらう事とし、緊急時には、事務局から各参加者の家族に状況報告を随時行う事としました。更に防災無線が復旧されていない現場での作業チームとの連絡手段にも改善が必要であるとの事から、連絡手段を無線などで行う事としました。



□ 7/15-18 水辺の清掃ボランティア隊 SEEVERS 第5陣

第5陣の参加者 23名、コーディネーター2名、スタッフ7名の総勢32名で従事しました。主な活動場所は、引き続き相川地区の川の瓦礫撤去作業となりました。しかし、第4陣が津波注意報による作業中止に至ったため、瓦礫撤去した後の処理が終わっていない、その片付けも併せて行いました。残念な事は、ボランティアバス到着と同時にバスの駐車場所から川へ参加者の転落事故が発生しました。大事には至らなかったものの、直ぐに石巻赤十字病院にけが人を搬送するなどの対応に一部のスタッフが追われる事態となりました。今後の安全管理、注意喚起の徹底を確認するとともに、近くに病院は無く、ケガ等が発生した場合の搬送の手順も再度見直す事となりました。

保険請求に関しても、再度確認、参加者に対して速やかにできるよう手順を見直しました。



□ 7/22-24 水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS 第6陣

第6陣の参加者は、25名 コーディネーター2名 スタッフ7名の総勢34名で従事しました。相川地区の瓦礫撤去作業は、重機による撤去が行われないうえに進みません。しかし、重機による撤去を請け負っている業者の問題により作業がストップになり、当法人の作業エリアも相川小学校周辺を最後に小泊地区へと移りました。この地区は、殆ど瓦礫撤去作業は始まってなく、新たな作業手順を組み一から始める事となりました。



□ 7/25 災害対策本部との打合せ

□ 7/26-28 水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS 第7陣

第7陣の参加者は、22名 コーディネーター 2名 スタッフ7名の総勢31名で従事しました。第6陣で着手した小泊地区、前は半日しか従事しなかったため、瓦礫処理作業の本格稼働は今回からとなりました。第6陣が沢の入り口付近の細かな瓦礫を撤去し、それによって搬出路が確保できたため第7陣は奥から瓦礫撤去し搬出しました。

しかし、天候不順のため1日目の作業は、早々に中止。2日目も午前中は沢に入る事ができず、暫く現地本部で待機していたところ、本部近くの津波被害に遭われた家屋から、家財の搬出依頼があり、午前中はその作業に従事しました。各被災者からの直接ニーズ受ける仕組みがなく、個別の対応が出来ていないこの地域、今後の仕組みが必要

と思います。



□ 7/29-31 水辺の清掃ボランティア隊 SEAVERS 第8陣

第8陣の参加者は、24名 コーディネーター2名 スタッフ7名とボランティアスタッフ3名の36名で従事しました。作業は、継続して小指地区の瓦礫撤去作業に当たりました。家屋の柱として使用されていた鉄骨なども、この地域のスペースは狭く人力で搬出しなければなりません。そこで、参加者全員で重量物をボランティア全員で搬出しました。

残念ながら、この作業をやっている中、作業者の足に重量物が落下する事故が発生、前回と同様石巻赤十字病院に搬送を行う事となってしまいました。十分な注意喚起を行っていても思わぬ事故は発生してしまいます。回ごとに人が入れ替わるチームでの安全管理の難しさを改めて感じました。



□ 8/13-14 現地本部の片付け

約4ヵ月間 当地域で活動していた災害支援活動は、ひとまず終了となりました。そこで、現地本部として活用していた拠点の片付けを行いました。

収支報告

収入		支出	
赤い羽根共同募金会	3,000,000	物品・消耗品	941,108
個人からの支援金	357,984	設営費	999,190
当法人から	1,097,028	人件費	1,910,000
ボランティア参加者から	2,943,200	食費	451,914
		保険代	105,400
		バス・宿泊代	2,990,600
小計	7,398,212	小計	7,398,212

まとめ

震災当初、狭い地域の中で、津波の被害を受けた住民と被害を受けなかった住民との間で確執が生まれ、瓦礫処理に地区全体で取り組む事が出来ませんでした。 そんな状況の中、本活動によって、何のしがらみもないボランティアが間に入り瓦礫処理などを行う事で、自然と確執は無くなり、結果的に、地区全体で瓦礫処理が順調に進む結果となった事が、本当に良かった事だと思います。しかし、今回のミッションでは、小泊地区の瓦礫処理は全体の半分で中断となりました。この理由は、大変残念ではありますが、当法人の活動資金が底をついてしまった事に起因します。現在、さまざまな支援策を見ても、東京から派遣するミッションは専門性の高い物ばかりで、地道な作業に関しては支援が打ち切られているのが現状です。若い人たちは、新たな生活を始めるためこの地域を離れ、残された高齢者だけで復興を進めるのはかなり厳しい状況が現状です。地域ごとに状況は違いますので、新たな支援策が生まれる事を願います。

多くの方にご支援・ご協力いただき有難うございました。